

「復習問題」 略解

(1 月 5 日訂正版)

1 a) $c_1\vec{a}_1 + c_2\vec{a}_2 + c_3\vec{a}_3 + c_4\vec{a}_4 = \vec{0}$ の解を求めてみる. 基本変形された行列を見て, $c_4 = t$ とおくと, $c_1 = 2t, c_2 = -5t, c_3 = -2t, c_4 = t$ (t は任意の実数) という $(c_1, c_2, c_3, c_4) \neq (0, 0, 0, 0)$ である解を得る. したがって, $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4$ は 1 次従属であり, $t = 1$ とおいて, $2\vec{a}_1 - 5\vec{a}_2 - 2\vec{a}_3 + \vec{a}_4 = \vec{0}$ という 1 次関係式を得る.

b) a) で求めた 1 次関係式より, $\vec{a}_4 = -2\vec{a}_1 + 5\vec{a}_2 + 2\vec{a}_3$ と表せることがわかるので, $(\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4)$ は $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3$ で生成されることがわかる. すなわち, $(\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4) = (\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3)$ である. 一方, 行列 A の基本変形の最初の 3 列部分だけを見れば, $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3$ が 1 次独立であることもわかる. したがって, $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3$ が $(\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4)$ の基底の 1 つであることがわかる.

c) b) で見たように $(\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4)$ の基底は 3 つのベクトルからなるので, 次元は 3.

お詫び 行列 A の $(1, 3)$ 成分が -2 であるべきところが -1 となっていました. 申し訳ありませんでした. なお, 変形後の行列はこの通りです.

2 a) 変形されてできる階段行列は $\begin{pmatrix} 1 & 0 & -2 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ これより, A の階数は 3 とわかる.

b) $c_1\vec{a}_1 + c_2\vec{a}_2 + c_3\vec{a}_3 + c_4\vec{a}_4 = \vec{0}$ の解を求めると, a) で求めた階段行列を参照して $c_1 = 2t, c_2 = -t, c_3 = t, c_4 = 0$ (t は任意の実数) という解を得る. したがって, $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4$ は 1 次従属であり, $t = 1$ とおいて, $2\vec{a}_1 - \vec{a}_2 + \vec{a}_3 = \vec{0}$ という 1 次関係式を得る.

c) $\vec{a}_4 = d_1\vec{a}_1 + d_2\vec{a}_2 + d_3\vec{a}_3$ と表せたとすると, $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4$ の間に, $d_1\vec{a}_1 + d_2\vec{a}_2 + d_3\vec{a}_3 - \vec{a}_4 = \vec{0}$ という 1 次関係式が成り立つことになる. しかし, a) で得られた行列をみると, このような形の 1 次関係式はないことがわかる. したがって, \vec{a}_4 は $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3$ の 1 次結合で表すことはできない.

d) f_A の像とは $(\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4)$ に他ならない. そこで, 問題 1 と同じようにして, $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_4$ が $\text{Im } f_A$ の基底であることがわかる. また, f_A の核とは $A\vec{x} = \vec{0}$ の解の集合に他ならない. a) の結果より, この解は $\vec{x} = t \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ (t は任意の実数) と書ける. したがって,

$\begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ が核 $\text{Ker } f_A$ の基底となる.

3 $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4, \vec{a}_5$ を並べてできる行列 $\begin{pmatrix} 1 & 6 & 3 & 3 & 1 \\ 1 & -1 & -4 & 0 & 3 \\ 2 & -1 & -7 & 1 & 5 \\ -1 & 4 & 7 & 1 & -3 \end{pmatrix}$ を基本変形によ

って階段行列に変形すると, (計算は少々複雑で, 手計算でやる場合は工夫が必要だが) $\begin{pmatrix} 1 & 0 & -3 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ となる. この行列の階数は 4 なので, $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_3, \vec{a}_4, \vec{a}_5$ のうち, 1 次

独立なものの最大個数は 4. 基本変形の結果から, 問題 1 と同様にして, $3\vec{a}_1 - \vec{a}_2 + \vec{a}_3 = \vec{0}$ が得られ, これより, $\vec{a}_3 = -2\vec{a}_1 + \vec{a}_2$ となる. \vec{a}_3 を除いた, $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \vec{a}_4, \vec{a}_5$ は 1 次独立なベクトルの組となる.

4 $P = \begin{pmatrix} -2 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$ とおくと,

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} -1 & -1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & -4 \\ 2 & 7 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -2 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 & 0 \\ 0 & 5 \end{pmatrix}$$

$$A^n = P \begin{pmatrix} 3 & 0 \\ 0 & 5 \end{pmatrix}^n P^{-1} = \begin{pmatrix} -2 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 3^n & 0 \\ 0 & 5^n \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -1 & -1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix} \\ = \begin{pmatrix} 2 \cdot 3^n - 5^n & 2 \cdot 3^n - 2 \cdot 5^n \\ -3^n + 5^n & -3^n + 2 \cdot 5^n \end{pmatrix}$$

5 a) $P = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ とおくと, $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$

b) これは, 対角化不可能な行列でした. この問題は今回の試験の範囲外です. 昨年の問題のミスを修正するのを忘れていました. ごめんなさい.

6 $y = -\frac{1}{2}x$ と平行なベクトル $\begin{pmatrix} 2 \\ -1 \end{pmatrix}$ はこの対称移動で不変であり, $y = -\frac{1}{2}x$ と垂直なベクトル $\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ は $-\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ に移る. そこで, $P = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$ とおき, 求める行列を A とおくと $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$ となる. ゆえに,

$$A = P \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} P^{-1} = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} \frac{1}{5} \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix} = \frac{1}{5} \begin{pmatrix} 3 & -4 \\ -4 & -3 \end{pmatrix}$$

7 a) $A = \begin{pmatrix} p+q & -pq \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$.

b) $P = \begin{pmatrix} p & q \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$ とおくと,

$$P^{-1}AP = \frac{1}{p-q} \begin{pmatrix} 1 & -q \\ -1 & p \end{pmatrix} \begin{pmatrix} p+q & -pq \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} p & q \\ 1 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} p & 0 \\ 0 & q \end{pmatrix}$$

$$\begin{aligned} \text{c) } A^n &= P \begin{pmatrix} p & 0 \\ 0 & q \end{pmatrix}^n P^{-1} = \begin{pmatrix} p & q \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} p^n & 0 \\ 0 & q^n \end{pmatrix} \begin{pmatrix} p & q \\ 1 & 1 \end{pmatrix}^{-1} \\ &= \frac{1}{p-q} \begin{pmatrix} p^{n+1} - q^{n+1} & -pq(p^n - q^n) \\ p^n - q^n & -pq(p^{n-1} - q^{n-1}) \end{pmatrix} \end{aligned}$$

d) $\vec{v}_n = A^{n-1} \vec{v}_1$ の第 2 成分をみて

$$a_n = \frac{1}{p-q} (-pq(p^{n-2} - q^{n-2}) a_1 + (p^{n-1} - q^{n-1}) a_2)$$

8] a) $M = \begin{pmatrix} 0.7 & 0.1 & 0.2 \\ 0.2 & 0.8 & 0.1 \\ 0.1 & 0.1 & 0.7 \end{pmatrix}$

b) 固有値 1 の固有ベクトルを求めると $t \begin{pmatrix} 5 \\ 7 \\ 4 \end{pmatrix}$ となる。各社のシェアは 5 : 7 : 4 となる。
すなわち、約 31%, 44%, 25% の割合となる。